

Exercise_d7:深い海洋に関する問題 7

♪ カッコ内の語句の中で最も適切なものはどれか答えなさい。

1. ある種のカサゴで見た場合、最も密度の大きな部位は (筋肉、肝臓、頭骨) であり、平均的な海水の約 (1.05、1.50、5.00) 倍になる。一方、脂肪は海水より一般に低比重で、サメのスクワレンは平均的海水の (0.7、0.8、0.9) 倍程度である。
2. かつて深海は生物の存在しない領域と考えられており、(スペイン、アメリカ、イギリス、フランス) の博物学者エドワードは、(無生物帯、無生物体、無機物帯) を提唱した。
3. ワニトカゲギスの英語名は、(ribbonfish, marine hatchetfish, lanternfish, viperfish) であり、一方、地震魚としてしばしばマスコミに登場する魚は (ribbonfish, marine hatchetfish, lanternfish, viperfish) である。
4. 深海を定義する場合、多くの基準が存在しており、一般に生物相に基づく区分では、(100m、200m、400m、800m) 以深を深海とする場合が多い。つまり、(無光層、薄光層、真光層) 以外の部分が深海に相当することになる。
5. 深海魚は食料の少ない状況下で生息できるように、遊泳水深を維持できるように (中性浮力、遊泳力、浮き袋) の機能を進化の過程で獲得した。
6. 深海底に生息する深海魚の映像では、しばしば巨大化した個体が映し出される。これは、(低海水温、高海水温、海水の富栄養化、高酸素) 状態を反映した、(長寿命、早い成長速度、代謝速度の高速化) が主たる要因との考えがある。
7. 戦前には、(4000m、6000m、8000m) 以深には、生物が存在しない領域であると考えられていたが、それ以後の研究で 10000m 以深からも生物が発見されたため、新たに (mesopelagic, abyssalpelagic, hadalpelagic) zone が設定された。
8. 全海洋地域の生物量において、真光層におけるそれは (80、70、50) %程度に達しており、表層海水の全体に占める体積が2%であることを考えると、深海における生物存在度は約 (20、200、2000) 分の1程度と見積もられる。
9. 体側を銀色に輝かせる深海魚は、一般に (真光層、薄光層、無光層) を生息域にしている。